

## 平成29年度卒業式 式 辞

厳しかった冬の寒さもようやく一段落し、春の訪れが感じられる、この佳き日に、栄えある卒業証書を授与いたしました352人の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

ご列席いただきました保護者の皆様、お子様のご卒業、本当におめでとうございます。お子様の誕生から今日まで、時にご苦勞もあったものと拝察いたします。深い愛情を持ち、育まれてこられたことに、改めて敬意を表しますとともに、本校教職員を代表して心からお祝い申し上げます。

また、本日は、公私ともご多用の中、多数のご来賓にご臨席を賜りました。日頃から本校の教育にご理解とご協力を賜りますとともに、卒業生の門出に花を添え、ご祝福いただき、誠にありがとうございます。高いところからではございますが、衷心より御礼申し上げます。

さて卒業生の皆さん、改めて、おめでとうございます。皆さんが少し緊張した面持ちで、期待に胸を膨らませて入学されてから、もう3年が経つんですね。真剣なまなざしで取り組んだ高校入試、笑顔がはじけた合格発表。あれから今日まで、おかげさまで校長として、皆さんと高校生活すべての時間を共有させていただきました。皆さんと出会えたこと、そして、見た目も内面も逞しく成長してくれたこと、とてもうれしく感じています。本当にありがとう。

そんな皆さんへの私からの最後エールとして、何を話させていただこうかと珍しく悩んだのですが、やはり原点に戻って、高津ならではの校風・校是「自由と創造」そして「日新日進」について、私の思いをお伝えしておきたいと思います。3年前とは違った受け止め方をしてもらえれば幸いです。

まず私は、この二つはセット。二つあって初めて真の高津の校風・校是だと捉えています。校長が言うのもなんですが、高津はとても難しい高校です。単に進学実績さえ高ければよい学校ではありません。もちろん他の高校も、決してそれだけをめざしているわけではないと思いますが、誤解を恐れずに言えば、そこに「特別」という言葉が加わらなければならない。一つひとつの行いは些細なことでも、もちろん卒業してからで十分だけれど、矜持として「人類の進歩にいかに関与するか」という高いレベルで『特別』であることが求められる歴史と伝統を背負った学校だと私は感じてきました。

いまさら説明するまでもありませんが「日新日進」とは「日に新たに、日に進む」。その1日が過ぎれば、それはすでに過去。時には、これまでの慣習や常識すら乗り越えて、自らが信じる道を追い求め続ける精神です。

皆さんが入学されてから今日まで、社会全体がまさに「日新日進」だったように感じています。とりわけ象徴的なものとしては「AI」の進化があるでしょう。私も始めは「AI。人工知能のことです」と言葉を補っていましたが、もはやそんな必要はなくなりました。例えば「囲碁AIのアルファ碁」が、世界トップクラスの棋士を破ったというニュー

スが驚きとともに伝えられたのは2016年でした。翌年には、ウェブ上で世界トップクラスの打ち手と立て続けに対局して、全60局すべてで勝利を収め、すでに囲碁AIの開発には終止符が打たれたようです。

特に私が驚いたのは、第3世代と言われる「囲碁AI」の学習過程です。これまでは、AIに過去の棋譜、人間のうち進め方をデータとして与え、より良い一手を選び出していたそうですが、第3世代には、囲碁の基本ルールだけを与え、あとは囲碁AI自身が力をつけていったと言われていました。「人間を参考に」ではなくルールベースだけが与えられ、独自で進化していった。ある意味、恐ろしさを感じる人々もいます。

一事が万事ではありませんが、伝えなかったのは、今、この瞬間も、刻々と社会は大きな変化を遂げているということです。近い将来、皆さんが中心となるこれからの世界は、人類が出会ったこともない根本的な変化を余儀なくされていると言っても過言ではなく、これまでの常識だけでは対応が困難であることは間違いないということです。

そこで「日新日進」。改めて、心に刻んでおいてください。

次に「自由と創造」。先日閉幕したピョンチャンオリンピック。ゆっくり見られなかった人も多いと思いますが、あれが「世界レベル」なんですね。スキー、スケート、スノーボード、カーリングなど、皆さんとあまり年の離れていない、あるいは皆さんより若い選手もベストを尽くし、素晴らしい感動を与えてくれましたが、中でも「自由と創造」の理念を皆さんに伝え、求め続けてきた私としては、スピードスケート500mで金メダルに輝いた小平奈緒選手の言葉が、もっとも印象的でした。

それは「与えられるものは有限、求めるものは無限」です。

この言葉を聞いた瞬間、私は「これだ。これこそ、高津の自由だ」と感じました。自分を律しつつ、周囲にも気を配りながら、与えられた課題をこなすことを超えて、自ら主体的に求め続ける姿勢。これこそが「創造・金メダル」につながったように感じました。

小平選手は今日、次の戦いに向けて日本を離れられるそうです。

そして皆さんにとって、大きなヒントになりそうな言葉がもう一つ。

順風満帆でない時は誰にもあります。多くのアスリートも挫折に直面することがあったようです。これから、皆さんも、辛くて、逃げだしてしまいたくなることもあるでしょう。そんな時、多くの選手が口にしていたのが「自分との対話」です。

「これからはコミュニケーション能力が大切だ」と、よく言われますが、自分を直接支えてくれた人たちはもちろん、それ以外の多くの人たちからも注目を浴び、期待を背負う中、自分のベストを出せるかどうか。そんな極限状況の中でも、もっとも身近で、話そうと思えばいつでも話せる大切な対話の相手は、詰まるところ自分です。自分との対話こそが原点であり、実は最も大切なことのようにも思えます。

あるがままの自分と向き合い、弱さも含めて受け入れたうえで、理想の自分を思い描き、

少しずつでもいいからそこに近づいていく。地道で苦しいかもしれませんが、それができれば自信を持って臆することなく、他者に、世界に向き合い、自分本来の力を最大限発揮できるようになる。その時「あなた」は本当の自分に出会い、求められる「コミュニケーション能力」も身に着けることができるだろうと思います。

気づいていないかもしれませんが、皆さん一人ひとりには、高津で育んだ高いポテンシャルがまだまだ眠っています。ぜひ、広い世界で、高い壁にチャレンジする「世界レベル」の気概を持ち続け、卒業生として、後に続く後輩たちに「光」を見せ続けてあげてください。

今年度の記念祭のスローガンは「愛され続けて99周年」でした。創立100周年のスローガンは「もっと自由に、もっと創造」です。秋には、現・旧保護者の皆様はもとより、皆さんの先輩達を中心となり、まさに高津らしい式典も予定されています。これが、高津のDNAがつながっていることの証であり、また、今後も継承されていく高津の『特別』な歴史と伝統」の新たな出発点になることを期待しています。

最後になりましたが、本日、ご多用中にも関わりませず、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様、並びに保護者の皆様、今後とも卒業生に対するご支援をいただきますよう、また併せて、本校が社会的存在として、その役割を全うし、末永く一層の発展を遂げられますよう、重ねてご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

結びに、卒業生の皆さんの幸多き前途を祈念して、式辞といたします。

平成30年2月28日

大阪府立高津高等学校 校長 村田 徹